

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
	最終更新日	2025年(令和7年)2月3日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>全国学力調査の結果、校区小学校は福山市の平均正答率を上回ったが、本校は下回る結果となった。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合い、実践した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかわる力 社会貢献力 自己形成力</p>
		<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら考え、判断し、行動できる自律した児童生徒 豊かな心を持ち、お互いを尊重し、人を大切にする児童生徒
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> 校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 DC教育を基に、ICTを活用した授業実践及び協議・交流の取組 家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組

III 自校

<p>ミッション</p> <p>夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>主体的に学ぶ力</p>	<p>思考力</p> <p>より良い解決に向け、目的や意図に 応じて論理的に考 えようとしている。</p>	<p>表現力</p> <p>必要な情報を整理 し、論理的に話した り書いたりするな どして、自分の考 えを表現しようとし ている。</p>	<p>他者と関わる力</p> <p>初めて出会う考 えにも耳を傾け、目 標達成に向けて、共 感しながら互いに 学び合おうとして いる。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>生活体験や既習事 項を基に、調べた り考えたりするな ど、継続して新た な課題を見つけよ うとしている。</p>			
<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉 ・全国学力・学習状況調査、学びの伸びを把握する調査、標準学力調査では、「書く」と「図形」に課題があった。 ・生活についてのきまりを守ろうと努力することはできるが、自分たちの生活をよりよくしようとする意識や学級の課題を解決に向けようとする意欲が低い。 〈授業〉 ・「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した」児童の割合 50.0% (全国 63.7%) 「学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行った」児童割合 68.2% (全国 74.4%) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」児童の割合 (「全国学力」アンケートが、77.3% (全国 81.8%)、どれも平均を下回っている。相手意識をもって表現する場や自分の考えと他者の考えを比較分類し、再考する場を設定する必要がある。</p>	<p>研究</p> <p>テーマ 自分の考えをもち、豊かに表現できる子どもの育成 ～「思考・表現を促す活動」「ふりかえり」を効果的に設定した授業づくり～</p> <p>内容等 問題解決型の授業研究の実践を年間を通して行う。(プロジェクト活動型)</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>○思考・表現を促す活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が考えたいくなる発問の工夫 見方、考え方を働かせる発問の工夫 <p>○ふりかえりの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 視点を明確にしたふりかえり 児童の的確な実態把握を生かした授業 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70% 達成 評価	70% 達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70% 達成 評価	70% 達成 評価	総合 評価	改善方策
4	自ら考え学ぶ児童(主体性)の育成	★	継続	自分の考えをもち、豊かに表現できる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童が相手意識をもって表現する場(異学年交流)や自分の考えと他者の考えを比較分類し再考する場の設定を行うなど、学びを広げ、深める授業づくりを進める。 児童に視点を明確にもたせたふりかえりを仕組み、他者と交流させ、自分の考えを深める経験を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した」ことができた児童を80%以上にする(児童アンケート) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」児童を80%以上にする(児童アンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した」児童は83%【104%】であった。しかし自他の意見を交流する前に自分の意見をもていない児童がいる学年もある。 「自分の考えを深めたり広げたりすることができた」児童は、81%【101%】であった。自分と他者との考えの違いをもとに自分の考えを深めることが充分ではない。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をもてるように、考える時間の確保や発問の工夫をする。 ペアで課題を解決する場面を増やし、教え合う中で、考えを深めたり広げたりする経験をさせる。 単元計画を立てる際、自分の考えを深める活動を、数回仕組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した」児童は85%【106%】であった。自分の意見をもてる児童が増えたが、うまく伝える自信がもてないことで発表につながらない児童もいる。 「自分の考えを深めたり広げたりすることができた」児童は、81%【101%】であった。自他の意見を比べて考えようとしている場面は増えたが、相手の意見を受容したり折り合いをつけたりすることが充分ではない。 	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えるためにペアなどの少人数での意見交流を継続し、自信をもって発表できるようにする。 発表しやすい雰囲気になるように、友達の意見をつなげたり共感したりする場面を捉え意識を高める。
				自分たちで考え、進んで掃除をすることができる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班掃除を、年間を通して実施する。高学年は、手本を見せたりアドバイスをしたりする。リーダーは、下学年のがんばりや成長を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えてプラス1掃除ができる児童を90%以上にする。(縦割り掃除後の児童アンケート・教師の見取り) 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で考えてプラスワン掃除をしている」児童は89%【98.9%】だった。 高学年を中心に汚れている箇所を自分で見付けて掃除している児童が増えてきている。低・中学年にもそうした動きを広げていく必要がある。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班掃除の反省会で、児童が自分たちで課題を見つけ、振り返りをさせる。 環境委員会を中心に、プラスワン掃除の仕方について全校へ投げかけ、活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で考えてプラスワン掃除をしている」児童は84%【93%】だった。 汚れている箇所を自分で見付けて掃除できる児童が、低・中学年にも増えてきている。 環境委員会による真っ黒雑巾大会により、汚れている箇所を自分で見付けようとする意欲を高めた。 	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 児童の意欲が継続するよう、雑巾を真っ黒にすることへの価値付けを続けていく。 児童主体の課題の設定と振り返りを継続する。
				自分で考え、主体的に体力づくりができる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 年2回、体力向上月間を設け、自分の目標に向かって体力向上に努めるよう促す。 体育の授業や朝体育の時間を使って日常的に体幹を鍛え、その結果を評価するものとして「握力」測定を年4回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自己目標に向かって進んで体力づくりに取り組めた」児童を90%以上にする。(児童アンケート) 握力が県平均を超えた児童を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで体力づくりに取り組んだ児童は88.0%【97.8%】だった。 9月に実施した3回目の握力測定で、全国平均を超えた児童は52.0%であった。個人別で見ると86.1%の児童が自己記録を伸ばしていた。保健体育委員会が中心となり、全校で体幹トレーニングに取り組んだ成 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上ががんばりカードを活用し、自己目標を明確にした上で体力づくりに取り組ませ、その姿を肯定的に評価していく。 引き続き、意欲的に体幹トレーニングに取り組みめるよう、保健体育委員会を中心に朝体育等を計画、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己目標に向かって進んで体力づくりに取り組んだ児童は88.1%【97.8%】で前回から改善が見られなかった。 1月の握力測定の結果、ほぼ全ての児童が(98.7%)自己記録を更新することができていた。しかし、全国平均を超えた児童は70.1%【87.6%】にとどまった。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活の中にも体幹を鍛えたり、握力を向上させたりする動きがあることに気づかせ、意識的に生活をするように促す(例:そうきん絞りなど) 楽しく体を動かす機会を増やすために、全校レクを計画・実施する。

						果が表れつつある。									
2	教職員の元 気・笑顔の増 進	★	継続	「思考・表現を促 す活動」「ふりか えり」を効果的に 設定した授業づ くりに向けた研 究・実践の充実	・プロジェクト型 の授業改善を進 める。(T3会議を 月2回)	・授業改善につな がる授業研究が みんなで協力し てできていると 感じる教師の肯 定的評価85%以 上にする。	・教職員アンケ ートの結果肯定 的評価100% 【118%】だっ た。	4	4	・T3会議だけでな く、職員室で互いの 取組を交流し、自己 の実践に取り入れ られることを見つ ける。 ・学年のつながりを 意識して、その学年 でつける力をもと に単元計画を立て る。	・教職員アンケ ートの結果肯定 的評価100% 【118%】だっ た。	4	4	4	・それぞれが設定 した課題につい てしっかり考え ることができた。 ・学年をこえた教 材研究を協働的 に行う。
4	地域を笑顔 にする学校		新規	地域の人やボラ ンティアの人に 感謝の気持ちをも って行動するこ とができる児童 の育成	・児童会を中心に、 年間を通してあ いさつ運動を実 施する。 ・地域の人やボラ ンティアの人と 連携をしながら 学習を進める。	・保護者・児童・登 下校ボランティア のアンケートで「地 域の人やボラン ティアの人にあいさ つができる」児童を 80%以上にする。 ・生活科・総合的な 学習を中心に地域 連携をカリキュラ ム上に位置付け、年 に2回以上連携す る。	・保護者アンケート では94%、児童ア ンケートでは 90%、登下校ボラン ティアでは80% 【112.5%】が、地 域の人にあいさつが できていると答え た。 ・あいさつをよくす る児童としない児童 が固定化している。 また、時間帯によ つても偏りがある。 ・カリキュラムを見 直し、地域連携の計 画を立てたことで、 1年間の見通しをも って学習を進めてい る。	3	3	・1学期に引き続 き、児童会を中心 にあいさつ運動を行 い、児童会の気付き を全校へ投げかけ、 あいさつのよさを 価値付けていく。 ・計画をもとに実践 し、改善点はカリキ ュラムマップに記 入して次年度につ なぐ。	・保護者アンケートで は92%、児童アンケ ートでは88%、登下 校ボランティアでは 83%【110%】が、 地域の人にあいさつ ができていますと答 えた。 ・依然、あいさつがで きる児童が固定化し ている。あいさつをよ くする児童が明るい あいさつが習慣化し ている。 ・カリキュラムを見 直すことで、地域と 連携した授業を、全 ての学年が年2回以 上実施できた。	4	4	4	・明るいあいさつ の意義を繰り返し 価値付け、校内だ けでなく地域でも あいさつが自然に できるよう指導を 継続する。 ・次年度のカリキ ュラムを編成する ときに、地域との 連携を年2回以上 計画に入れてお く。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。